

Sea front

【シーフロント：海岸通り】

生誕180年記念

富岡鉄斎

—近代への架け橋—展

TOMIOKA TESSAI Retrospective
on the 180th Anniversary of his birth
A Bridge to Modern Paintings in Japan

3月12日[土]—5月8日[日]

前期：3月12日(土)～4月10日(日)

後期：4月12日(火)～5月18日(日)

最後の文人画家、近代文人画の巨匠などとはしばしば形容される富岡鉄斎。知名度においては日本美術史の中で上位にランクされるのではないのでしょうか。一方で、画中にびっしりと書き込まれた賛(詩文)や、中国風の山水画や人物画、漢字だけの画題等々、難解なイメージがあり、なんとなく近寄りがたいと感じている方もおられるかもしれません。筆者も鉄斎については、古今多くの学識者や芸術家が捧げた賛辞を読むにつけ、すごい画家なのだろうとは思いつつも遠巻きに眺めているという感じていました。それがこのたび、当館(兵庫近美も含む)では初めて、しかも規模としては30年前の生誕150年記念の鉄斎展(於京都市美術館)に次ぐ大規模な回顧展として開催させていただくことになりました。今回の展覧会は、鉄斎の優れた研究とコレクションで知られる清荒神清澄寺(宝塚市)のご協力をいただき、鉄斎美術館との共催により開催します。清荒神清澄寺 鉄斎美術館が所蔵する名品に加え、同寺が各地の美術館、博物館へ寄贈した鉄斎の大作、名作も集結し、総点数約200点で鉄斎の画業を紹介します。

担当者として遠巻きに眺めていることはもはや許されず、鉄斎美術館の学芸員のご教示をいただきながら作品を選定し、準備を進めてきました。

文人画(※)とは、もともと中国の高級官僚、知識人＝文人が

余技として描く絵画をいいます。日本へは江戸時代後期に伝わり、以後明治初期にかけて大いに隆盛しました。

天保7(1836)年、京都に生まれた鉄斎は幼少期から国学、漢学、仏教、儒教など広く学問を修め、絵を学んだのは19歳ごろからといわれていますが、江戸末期には儒者として名が知られていました。鉄斎は画家ではなく学者として世に出、終生画家と呼ばれることをよしとせず、学者＝文人として生きたのでした。その鉄斎が、文人の理想を表す言葉として座右の銘としていたのが、中国・明時代の画家、董其昌による「万巻の書を読み万里の路を行く」という言葉でした。実際彼は、膨大な書籍を有し、博覧強記の学者として知られていた一方、先人の遺跡や地誌を調査する目的で日本各地を旅しました。鉄斎の書画の源泉はこの「万巻の書」と「万里の路」にあったのです。展覧会では第1章「万里の路」第2章「万巻の書」として、旅行や書物から着想を得た山水画や人物画等を展示します。

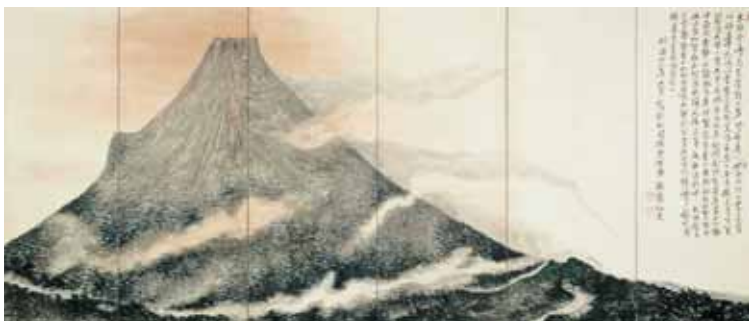
鉄斎の凄いところは晩年になるほど作品が充実をみせたことです。89歳で亡くなる直前まで筆勢衰えを知らず、真っ黒に塗りつぶされたような作品から、繊細華麗な筆致と賦彩による作品まで、自在無碍の境地が見られます。第3章では、70歳代後半から最晩年までの力漲る作品を紹介します。

流派や様式の枠を越えた、鉄斎の奔放で自由な表現は同時代や後世の画家を瞠目させました。伝統的文人画の世界に身をおきながら彼の作品は、西洋の印象派以降を知った洋画家や日本画家たちが着目する新しさ＝近代性を備えており、そこに周囲の画家たちは驚嘆したのです。展覧会の最終章では梅原龍三郎や中川一政ら、鉄斎画に影響を受けた画家たちによる作品と言葉を通して、鉄斎の近代性について考察します。

遠巻きに眺めていた筆者も、準備を進めているうちに鉄斎の一つ一つの筆遣いやモチーフが「分節」されて、目になじんできた感があります。鉄斎画を理解するためにはまだまだ精進せねばなりませんが、本展が鉄斎作品の名品に触れる絶好のチャンスであることは間違いありません！皆様それぞれが鉄斎画の魅力を発見していただきますよう、ご来場を心からお待ちしております。

※文人画は南画とよばれることもあります。

(飯尾由貴子／当館学芸員)



《富士山図》(前期展示) 1898年 紙本着色、六曲一双 清荒神清澄寺 鉄斎美術館蔵
(本作品は2015年12月、宝塚市有形文化財に指定されました)

会員更新のご案内

兵庫県立美術館「芸術の館友の会」

平成28年度友の会会員の予約受付を開始します！

現在A・B・学生会員の方は、3月末で会員証の有効期限が切れます。次号4月号の会報誌は、更新されないとお届けできませんので、この機会にぜひご継続下さい。

来年度も兵庫県立美術館では、下記のような魅力的な展覧会ラインナップでみなさまをお待ちしております。

友の会も、会員限定または優先イベントなどを準備しています。展覧会の優待以外にも、会報誌・展覧会情報の送付や提携施設での優待など美術ファンには嬉しい特典が受けられます。アート好きな方へのプレゼントとしても是非ご利用ください。

平成28年度会員（A・B・学生会員）の予約受付について

- 会員期間
平成28年4月1日～平成29年3月31日
- 予約受付開始日
2月17日（水）～
- 申し込み方法
友の会カウンター、電信振替にて承ります。
詳しくは同封の「平成28年度 兵庫県立美術館
『芸術の館友の会』会員募集」のチラシをご覧ください。

※28年度の会員証は4月1日からご利用可能となります。

兵庫県立美術館 平成28年度特別展のご案内

※展覧会の内容・名称・会期は都合により変更することがあります。ご了承ください。

生誕180年記念 富岡鉄斎 ―近代への架け橋― 展	3月12日（土）～5月8日（日）
1945年±5年 激動と復興の時代 時代を生きぬいた作品展（予定）	5月21日（土）～7月3日（日）
生誕130年記念 藤田嗣治展（予定）	7月16日（土）～9月22日（木・祝）
世界遺産・ポンペイの壁画展（予定）	10月15日（土）～12月25日（日）
アドルフ・ヴェルフリ展（予定）	平成29年1月11日（水）～2月26日（日）

友の会行事報告

保存修復室ツアー2015 「保存修復の 現場をのぞく」



2015年12月12日（土）

○参加者数：10:15～12:15（参加者：24名）
15:15～17:15（参加者：24名） 計48名

○場所：当館保存修復室
○講師：保存・修復グループ
横田直子学芸員、相澤邦彦学芸員

保存修復室の役割は私自身の持っていたイメージとは違いました。作品の欠損の修復、汚れ、染みの除去等はコツコツと地味な作業であることは予想通りで、配布されたプリントの写真でもわかります。しかし第一の目的は、作品のオリジナルをいかに保つか、次世代につなぐために、100年先を見据えてあらゆる方向から検討していくことが仕事の8割だということです。そのために収蔵庫、X線での透過、貸出しの梱包、輸送でのリスク、地震への防災などが検討されていました。作品の大きさ、形、材料などに対して、一つ一つが工夫に満ちています。館内では光、空気、虫の三点に注意が払われています。虫というのは、粘着テープで収集し、種類によって好む餌の違いで館内の様子を探るということです。展示された作品はこうした裏方の仕事に支えられていることもわかり、参加してよかったです。

（Y.O／会員）

会員アンケートの結果について

《合計42名の会員よりご回答いただきました。》

『Sea front』12月号に同封しました会員アンケートより、こちらに一部をご紹介します。

☆友の会が企画する観光旅行で行ってみたい場所、美術館は？

ご希望の多い順にあげると、①MIHO MUSEUM、足立美術館、②佐川美術館、③大原美術館、金沢21世紀美術館という結果でした。美術館以外では、新長田の下町芸術祭、明治村などあげていただきました。今後の参考にさせていただきます。

☆あなたがよく訪問する美術館、好きな美術館は？ （ギャラリー・アーツスポット等）

人気ベスト5は、①兵庫県立美術館（ありがとうございます!!）、②京都市美術館、③国立国際美術館、④神戸市立博物館、⑤姫路市立美術館という結果でした。もちろんこれ以外にも、関西のギャラリーや全国各地の美術館もあがっていました。

その他、友の会のイベントや友の会や美術館に対しての様々なご意見、ご感想をいただきました。このアンケートは、今後の友の会の運営の参考にさせていただきます。皆様、ご協力ありがとうございました。

谷中安規の版画を味わう

小企画展「奇想の版画家 谷中安規」、みなさまご覧いただきましたでしょうか？1月19日からは後期展示となり、数点ですが作品の入れ替えがあります。会期も半ばですが、あらためて谷中作品の魅力をみなさまに知っていただきたく、今回は技法や材料の面からいくつかの注目ポイントをご紹介します。

その1 極薄の和紙に表現された白と黒の世界！

初期作品に多くみられる、裏が透けるほど極薄の雁皮紙系和紙に摺られた作品群は、谷中の独創性を特徴的に表しています。同時代の作家でこのような極薄の和紙の使い方をする人は見当たりません。白と黒で表現された魅惑的なイメージに、紙の独特な光沢や透明感との対比で浮き立った黒色面の立体的な効果が加わり、その世界観をより強く印象づけています。この紙の薄さや風合いは言葉では表現しきれませんので、実際に作品をじっくり観察されることをおすすめします。

その2 黒色に注目！

同じ黒色でも材質の違いや摺り方によって印象は大きく変わります。谷中作品の黒には、実はひとつ秘密があるようで、墨に卵白を混ぜていたという証言があります。『白と黒』という版画雑誌で谷中を世に送り出した料治熊太は、大量の卵を買い込んで白味だけを墨汁に混ぜながら、夜も寝ないで夢中になって摺っている谷中の姿を目撃しています。妙に光沢のある黒色や薄づきなにははっきりとテクスチャーが感じられる不思議な黒色は、この卵白使いがミソなのかもしれません。また、あきらかに墨ではなく、油性インクの黒色を使用している作品も数点あります。この微妙な黒色の風合いの違いが谷中作品の独創的な表現とどのように結びついているのか、ぜひとも展示室で確かめてください。

その3 同じなようでどこか違う！

今回の展示では、同じ版木で色や紙の種類を変えて摺られた作品をひとつの額に並べて額装してみました。木版画は複数同じものを制作することが可能ですが、1枚摺るごとに、版木に残った色材を拭き取り、新たに調整した色材をのせ、紙をおき、バレンやプレス機で摺るという一連の工程を繰り返します。人の手で行うことなので、工程のひとつひとつ全く同じという訳にはいかず、またその組み合わせによってさらに違った結果が生み出されます。浮世絵などの伝統木版ではこの誤差を最小限にとどめようと職人が技術を競い合うわけですが、谷中作品では、そのあたりは非常におおらかで、むしろその出来栄の振れ幅を楽しんでいるようにさえ感じられます。紙の種類や色の違う作例も、「一番良いもの」を求めてのチャレンジというよりも、色々なパターンを楽しんでいたような無邪気さが伝わります。そういった意味で谷中作品は特に1点1点が個性あふれるオリジナルプリントといえます。どちらの出来が良いかという比較ではなく、どちらがみなさんのお好みの作品かじっくりと比べてみてください。

(横田直子/当館学芸員)



谷中安規《葬送行進曲》制作年不詳 M氏コレクション

美術情報センターから

和図録『静かなる時のなかで ジョルジョ・モランディ 花と風景』(東京都庭園美術館)

今回は、昨年の12月8日から当館で開催中の特別展「ジョルジョ・モランディ 終わりのなき変奏」に関連した本をご紹介します。

モランディは、壺や容器・花瓶などの日常的モチーフや身近な風景に微かな影や色彩の調和を用い、静かで瞑想的な世界を表現しました。今回ご紹介する本は、卓上静物ではなく、数少ない花と風景画を中心に収録されています。

生涯、故郷ボローニャで制作活動を続けたモランディ。そんなモランディが描いた花や風景画からは、自然の透明さや輝きをとらえ、故郷をみつめる画家の柔らかな眼差しを感じ取ることができます。この本は、モランディの全作品に通じる詩情に満ちた作風を最も感じとることができる1冊です。

ご紹介した本は、情報センター内の特別展開関連図書コーナーに置いています。是非お手にとってご覧下さい。



横尾忠則現代美術館について

地上4F建ての横尾忠則現代美術館。そのうち2・3Fは展示室のある有料ゾーン、1・4Fは無料ゾーンとなっています。今回は、チケットがなくても楽しめる無料ゾーンの魅力をご紹介します。

まずは1Fのオープンスタジオ。ここでは横尾さんの公開制作、レクチャー、コンサート、ワークショップなど、ありとあらゆるイベントが開催されます。展覧会チケットがあれば無料で参加できるイベントも多数ありますので、ぜひホームページなどでスケジュールをチェックのうえお越し下さい。

ミュージアム・ショップには、まるでおもちゃ箱をひっくり返したようなカラフルなヨコオ・グッズが溢れています。シーズンごとに入荷する、数量限定の新作アパレルを目当てに来館するお客様もおられるようです。

4Fには、横尾さんの膨大な関連資料を収蔵する、ガラス張りのアーカイブルームがあります。時には学芸員が整理作業を行う様子が見られるほか、展覧会の内容にあわせて様々な資料を紹介する小展示コーナーもあります。

アーカイブルーム横の通称“目玉廊下”もお忘れなく。格好の記念撮影スポットとして、すっかり人気ものになりました。

最後の休憩・閲覧コーナーでは、横尾さんの画集などを自由にご覧いただけます。強烈な色彩体験の後には、六甲山系の素晴らしい眺望もどうぞご堪能下さい。

(山本淳夫／横尾忠則現代美術館学芸員)



4F 通称“目玉廊下”とアーカイブルーム

近隣展覧会情報

施設名／連絡先	展覧会名	会 期	休館日
横尾忠則現代美術館 * ☎078-855-5607	・開館3周年記念展 横尾忠則 幻花幻想幻画譚	12/12(土)～3/27(日)	月 曜 (祝日の場合は翌日休館)
BBプラザ美術館 ☎078-802-9286	・新収蔵品を核に 神戸で奏でる色と形のドラマ ・同時開催 エコールドバリの画家たち	12/15(火)～3/6(日)	月 曜 (祝日の場合は翌日休館) 3/7(月)～4/4(月)
神戸市立博物館 ☎078-391-0035	・須磨の歴史と文化展 ―受け継がれる記憶― ・四季山水図屏風重要文化財指定記念 太山寺展	2/6(土)～3/21(月・祝) 2/6(土)～3/21(月・祝)	月 曜 (祝日の場合は翌日休館) 2/4(木)・2/5(金)は休館
西宮市大谷記念美術館 ☎0798-33-0164	・美と装い	1/2(土)～2/14(日)	水 曜 (祝日の場合は翌日休館) 2/15(月)～4/1(金)は休館
芦屋市立美術館 ☎0797-38-5432	・戦後のボーダレス ―前衛陶芸の貌 ・昔の暮らし ～江戸時代ってどんな時代?～ ・美術と音楽の一日「rooms」	11/28(土)～2/7(日) 11/28(土)～2/28(日) 3/5(土)	月 曜 (祝日の場合は翌日休館) 2/8(月)～2/19(金)、2/29(月)～3/4(金)、 3/6(日)～3/31(木)は休館
伊丹市立美術館 ☎072-772-7447	・ドーミエ どーみる? しりあがり寿の場合 ・伊丹市芸術家協会展(入場無料)	1/16(土)～3/6(日) 3/12(土)～3/27(日)	月 曜 (祝日の場合は翌日休館)
尼崎市総合文化センター美術ホール ☎06-6487-0806	・第35回尼崎芸術文化協会 芸文美術展(4・5階美術ホールで開催) ・追悼 白髪富士子 ～一雄と歩んだ一筋の道～(白髪一雄記念室で開催)	2/6(土)～2/14(日) 10/10(土)～3/21(月・祝)	会期中無休、ただし3/8(火)は 白髪一雄記念室のみ臨時休室
兵庫県立歴史博物館 * ☎079-288-9011	・特別企画展 出石焼 ―但馬のくらしとやきもの―	1/16(土)～3/6(日)	月 曜 (祝日の場合は翌日休館)
姫路市立美術館 * ☎079-222-2288	・画家の詩、詩人の絵 ―絵は詩のごとく、詩は絵のごとく	2/13(土)～3/27(日)	月 曜 (祝日の場合は翌日休館) 3/22(火)は休館
兵庫陶芸美術館 * ☎079-597-3961	・兵庫陶芸美術館 開館10周年記念特別展 再`丹波(冬)―丹波の登窯とその時代― ・兵庫陶芸美術館 開館10周年記念特別展×2015年度著名作家招聘事業 市野雅彦・軌跡、丹波にて ・明治有田 超絶の美―万国博覧会の時代―	12/12(土)～2/14(日) 9/5(土)～2/14(日) 3/19(土)～6/5(日)	月 曜 (祝日の場合は翌日休館) 3/21(月・振休)、5/2(月)は開館、3/22(火)、5/6(金)は休館
滋賀県立近代美術館 ☎077-543-2111	・ピアズリーと日本 ・コラージュの世界 ・新収蔵品を中心に	2/6(土)～3/27(日) 2/6(土)～3/27(日) 2/6(土)～3/27(日)	月 曜 (祝日の場合は翌日休館) 3/21(月・振休)は開館、3/22(火)は休館

*印がついている施設では、会員登録の提示で割引などの特典が受けられます。
上記の展覧会内容、休館日等は、各施設の都合により変更になる場合があります。詳しくは、各施設にお問い合わせください。

保存修復のお道具拝見 「マルチツール」

相澤学芸員が『これがないと困る』と語るマルチツールは、アメリカの軍隊や特殊部隊でも使われるほどのマルチな性能と耐久性を兼ね備えています。ペンチの挟む力やラジオペンチのギザギザ感を『いいとこどり』したペンチ部分は、展示用に金具を曲げたり、取りにくいネジを取るのに役立ちます。ヤスリは2種類あり、木製の額の修繕などに使用します。ノコギリは作品を固定する木材などを切る時に活躍します。ドライバーはマイナスが大小、プラスが大小とあり、緩んだネジなどに使用。ハサミやナイフはエアークリップを切る際にも使用できます。コンパクトに折りたたむと、トンカチのようにガンガンと硬いものを叩く事もできます。福島県における文化財レスキューの際には、壁にはめ殺しになった作品を急遽取り出すことになった時に、大いに役立ったそう(詳しくは『ART RAMBLE』42号参照)。学芸員が持つことは少ないそう、運搬・展示に係わる業者の方が現場で使用する事が多いとのこと。

持ってみると、大きくてズシッとした重厚感が!さすが『サージSURGE(大波)』モデル。相澤学芸員は手が大きいのでフィットし、力が入りやすいそう。もう少しコンパクトな『ウェーブWAVE』モデルもあるそうです。



(聞き手 遊免寛子／当館学芸員、書き手 宮崎恵美／友の会職員)

KEN-Vi名画サロン 映画上映お知らせ

「ターナー、光に愛を求めて」

2016年2月20日(土) ①10:30 ②14:00

謎のヴェールに包まれた英国史上最高の画家ターナーその素顔と創作の秘密が、今明かされる。19世紀イギリス「ロマン主義の巨匠」印象派に多大な影響を与えた「光の画家」J・M・ターナー。旅を愛した画家の素顔は謎に包まれていた。天才の創作の秘密が紐解かれながら、ターナーの絵画の世界にいるかのような光溢れる映像美が広がる。



©Channel Four Television Corporation, The British Film Institute, Diaphana, France3 Cinéma, Untitled 13 Commissioning Ltd 2014.

そして不器用で孤独な男が辿り着いた人生の喜びが胸を打つ感動の物語をぜひ、友の会会員価格でご覧ください!

●次回上映は…「愛の調べ」2016年3月18日(金) ①10:30 ②13:00 ③15:30

メンテナンス休館のお知らせ

2016年3月7日(月)～3月11日(金)の間は、館内メンテナンスのため休館いたします。友の会受付カウンターも上記期間中はお休みいたしますのでご了承くださいませ。

●訂正とお詫び

「Sea front」12月号「KEN-Vi名画サロン「百日紅～Miss HOKUSAI」映画上映のお知らせ」のコピーライトに誤りがございましたので訂正いたします。正しくは、©2014-2015 杉浦日向子・MS.HS./「百日紅」製作委員会です。以上訂正してお詫び致します。

編集後記

平成27年度の友の会行事も全て無事終了することができました。ご協力・ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。ただ今、新年度に向けて、『Sea front』の内容や事業計画を練っている真っ最中です。ぜひ来年度も皆様にお会いできるのを楽しみにしております。来年度もどうぞよろしくお願い致します! (宮崎/事務局)

兵庫県立美術館 「芸術の館友の会」会報誌

Sea front Vol.82 2016年2月1日発行
編集・発行 兵庫県立美術館「芸術の館友の会」事務局
〒651-0073 神戸市中央区臨海海岸通1-1-1
TEL: 078-262-0916 FAX: 078-262-0903
http://www.artm.pref.hyogo.jp
E-mail: tomonokai@artm.pref.hyogo.jp

次号は2016年4月発行予定です。

ウェブ版パスワード TET97